

～誰一人取り残さない学校教育～

相模原市教育委員会
学校教育課



「未来へつなぐ さがみはらプラン～相模原市総合計画～」

全ての市民が安全に安心して暮らせる持続可能な社会を次代に引き継いでいくため、計画的なまちづくりを進める指針として策定。(令和元年)

【教育部門】
施策3「幼児教育・学校教育の推進」

<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/shisei/1026766/seisaku/1015646/index.html>



左記の総合計画における教育部門の計画として、本市の教育がめざす方向性を明確にするものとして策定。
(令和2年)

【学力保障推進事業】
施策3「学力の向上に向けた取組の推進」

<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kosodate/1026602/kyouiku/1026610/shisaku/1016029.html>



次世代の担い手である子どもたちが自分の人生を切り拓くことができるよう、「確かな学力」※を育成するため、本市で課題が見られる基礎的・基本的な学力の定着に向けた取組を推進します。

※「確かな学力」…知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの。(文部科学省「確かな学力 これからの時代に求められる力とは?」参照)

学校教育で期待する力(全8項目のうち3つまで選択可)

1位 基礎的な学力(文章を読み書きする力、計算する力) 61.8%

2位 感性や思いやり 54.6%

3位 様々な問題を解決する力 50.0%

※基礎的な学力の定着を期待する声が多。

学力向上・学力保障に向けた取組や学力保障推進事業の効果検証を行い、よりよい教育の推進をめざし、校長や学識経験者等を構成員とした学力向上・学力保障推進検討委員会を実施しています。

誰一人取り残さず、児童生徒の確かな学力を育成するために、
「学力調査（エビデンスの活用）」「主体的な学びの支援」「学びの保障」
の3本柱として、義務教育9年間を通じた取組を推進しています。

小学校・義務教育学校前期課程

中学校・義務教育学校後期課程
()内は義務教育学校の学年

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生 (7年生)	2年生 (8年生)	3年生 (9年生)
学力調査 (エビデンス の活用)			学びの 調査	学びの 調査	学びの 調査	全国学力・ 学習状況 調査			全国学力・ 学習状況 調査 
主体的な 学びの支援					生活習慣 改善出前 講座 			生活習慣 改善出前 講座 	
	タブレットPC学習ソフト等の活用（ミライシード・グーグルワークスペース・MIMデジタル等）								
学びの 保障	多層指導モデルMIM								
	学習支援員 		支援教育支援員						

学力調査（エビデンスの活用）

○学びの調査

国語・算数の学習状況を把握し、学習や指導に生かすため、小学校3～5年生を対象に学びの調査を実施しています。

○全国学力・学習状況調査

全国の子どもたちの学力状況を把握するため、文部科学省が実施している学力調査です。本市では、調査結果を踏まえた授業改善等に取り組んでいます。

○生活習慣改善講座

基本的な生活習慣の確立や家庭学習の定着、自己肯定感の高まりを図るため、児童生徒およびその保護者を対象に、各学校において生活習慣改善講座を実施しています。

○タブレットPC学習ソフト等の活用

基礎学力の向上や「主体的・対話的で深い学び」の支援等をめざす学習ソフトやMIIMの読みのアセスメントとトレーニングができるMIMデジタル等を活用しています。

学びの保障

○多層指導モデルMIM

全小学校・義務教育学校前期課程において、多層指導モデルMIMを活用した指導・支援を行っています。

多層指導モデルMIMは、読みをつまづきを発見するアセスメントを実施し、その結果をもとに特殊音節を含む言葉を正確に読むことや書くこと、語彙の拡大を図り、流暢に読む力や読解力へとつなげる指導モデルです。主な対象は小学校1・2年生です。

○學習支援員

学校の授業で基礎的・基本的な学力の習得を図るため、小学校に学習支援員を配置しています。原則、小学校1・2年生の国語・算数の授業において、教室内外の個別指導・支援等を行っています。

○支援教育支援員

全小・中学校・義務教育学校において、教育的支援の必要な児童生徒の学習支援を行っています。